

## 事業報告書 (平成29年度)

事業名 国際理解教育を通しての学び ー幸せって なんだろうー

団体名 特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド 担当者名 田代 邦子

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

#### ☛学校との国際理解教育の実践

主に小学校での出前授業(世界の実態や、協力活動で大事な事などを授業の中で話し合う)先生・児童・生徒たちの取り組みに助言し、その活動を手伝う

1 学期は、世界を知る→連携校に出前授業に行く

2 学期は、児童の実践活動に協力して、カンボジアに支援物資を持ち込む、

3 学期は、HG は活動の結果の報告をし、子どもたちの活動が、何処でどのような役に立ったかを報告する。児童もこの授業を通して考えたことや、今後につながることを、話し合いまとめる。

#### 出前授業・交流・受入

(本部スタッフ・カンボジアスタッフ・カンボジア教育省訪問者・派遣インターン)

岡山県：第3 藤田小学校(5/24, 9/28, 11/14, 11/17, 2/14, 2/16, 2/20, 3/15) 朝日塾小学校(7/7, 11/9) 政田小学校(10/26, 1/17) 野谷小学校(12/19) 清輝小(11・0) 倉敷市立連島小(7/10) 藤田中学校(11/14) 岡山清秀中学校(1/12-22) 総社西中学校(11/15) 岡山学芸館高校(8/20-23, 10/21, 12/15-18, 2/21) 就実大学(8/27, 9/14-20) 岡山大学(11/16, 12/22-25)

長野県：高森中学校(10/20)

兵庫県：神戸女子大学(8/27)

茨城県：筑波大学(2月-3月に現地で活動)

学校以外：ライオンズ・ロータリークラブ、アニモの会(6/25)、中国地区小学校校長会(11/2)、カンボジア JEJJ 会などでHGのESD活動を講演・広報、イベント・パネル展も実施

スカイプ交流：今年もスカイプで学校と現地を結んで交流した。お互いの個人カードを好感して交流

◎第3 藤田小学校6年生と2回スカイプ交流(9/28, 2/20)

#### ☛現地でのスタディーツアー・インターンの受け入れ

\*東南アジア事務所・シェムリアップ支所にて受入(活動現場見学・交流・体験)

・中学生・高校生・大学生現地研修ツアー(清秀中学校・学芸館高校、岡山大学、神戸学院大学、就実大学、筑波大学他多数)

☛カンボジア派遣 広島大学の学生をインターンとして、9か月間にわたってHGの活動現場で受け入れた。(4月-1月)

☛カンボジア教育省の7名を岡山で研修(岡山大学, 岡山小, 中学校, 清音ソレイユ・ペタ

ンククラブ（カンボジアはペタンクが盛ん）で受入れ交流・研修。

●イベント（ESD 関連）物資支援・募金・講演会

- ・チャリティー親子マラソン in おもちゃ王国（9/24）を開催（国際協力イベント）
- ・アンコールワットウォーキング、NCCC などに、日本の学校が集めた物資（鉛筆、ボール、石鹸、歯ブラシ、Tシャツ、ノートなど）を支援（12/1）した。帰国後報告。
- ・募金は、現地でボールやストップオッチを購入し、また、マットを作成し必要な学校に寄贈するなどの支援活動を実施。支援した学校には結果を報告。支援物資は支援学校の生徒たちと話し合いながら決めていく。
- ・運動会は、岡山大学教員、岡山大学学生がカンボジア・バタンバン州の小学校 7 校での開催に協力（12/22-25）参加、協力（添付：岡山大学報告書）
- ・岡山だけでなく NGO フェスタ広島などで、広く活動を広報
- ・活動パネル展（イオンなど）

2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

●総合的なものの見方を養う

単に途上国に支援するというだけでなく、資源/経済/環境など地球規模で問題をとらえるように指導、また、様々な事柄が、自分たちとかかわっていることを知る。

- 活動を保護者や生徒会、地域に広げることによって、自分たちのまわりを変えていくこと（社会性）ができ、小さな善意を大きな力にできることを体験。
- 知る→関わる→変わる（知識として知るだけでなく、途上国と実際に関わることによって、自分たち自身が変わっていく事を最終目的とした）
- 継続する意味の確認 社会的な活動は継続することで、社会を変えることができることを実感(自信)

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

- 自分たちの活動が相手に伝わったことで、遠いと思っていた人たちが近くに感じられるようになった（顔の見える協力・交流）
- カンボジア人や現地に入った人から直接話を聞くことで、自分たち自身の立ち位置が理解でき、はじめはかわいそうと思ったことが、途上国の人々の生きる力に感動し、頑張っている人々への尊敬が生まれた。そして、自分自身も頑張る事の大事さを確認できた。
- 今自分たちなりにできる活動があり、将来社会に役立てる人間になるという体験ができた。目指した成果
  - ・見えないものを見る目・聞こえない声を聞く耳を持ち
  - ・まずは実行する手と足を使い
  - ・相手の立場に立って考えられる冷静な頭脳と温かい心を育むこと
- 寄り添い→出会い→共感→結びつき→目の前で起きる他者の起き歩み→自らの生に決定的な肯定が与えられた。このようなサイクルが個人の中に息づいた。
- 今年もスカイプで直接現地と教室を結んで子供たち同士の交流を持った。事前にお互いに個人カードを交換して相手をより理解できるように工夫した。双方発表し、日本の児

童の演奏や跳び箱、サッカー実技などを披露して楽しんだ。同じ歌を歌ったりして、まさしく遠くにおいても、顔の見える交流が出来、相手を身近に感じられた。

ネットを利用した新しい交流は、学校では遅れているので、どんどんと広げていきたい。まず、岡山市の学校が、ITを十分に使える状況にしてほしい。(添付：第3藤田小報告書)

- 中学・高校、大学生で現地訪問をした場合は、ものの考え方(グローバルな見方)が大きく変化することが先生から報告された。(添付：学芸館・清秀中学校報告書)
- 来年度以降も、日本とカンボジアの子ども達と交流したいとの希望が寄せられている。
- 学生たちからの感想文は、HGにとってもこの活動をしてきてよかったと思う感想文であった。

#### 4. 今後の課題と展望

- 2015年のユネスコ世界会議をきっかけに、岡山市ではユネスコスクールに参加する学校が増えてきている。また、公民館活動などをはじめとして市民が主体的に活動をするESD活動が盛んである。みんなで自主的に協力して活動する国際協力を体験できるサービスラーニングとして、学校単位で、国際理解教育に協力していきたい。

#### 2018年度の活動予定

- 国際交流 グローバル人材育成を実践する高校・大学が増加している。支障がない限り学生たちが国際協力の現場を正しく理解し、実践し、進んで未来をつくる力を持つ青少年育成に協力したい。そして、インターンとして、現地や本部に長期に活動する人々を受け入れる予定である。

また、2018年にカンボジアの学生の留学を予定している。2017年度4月から、岡山マラソンをきっかけに岡山に来たカンボジア人が、日本語を勉強するために岡山で留学中。これらのカンボジア人留学生が、学校に出向いて交流したい。

- 平和構築(カンボジアとの連携強化)

カンボジアの教育省とますます協力して改革を進め、岡山との関係を強固なものにしていきたい。

- 学校のIT環境の推進

世界は急速にIT化しているので、子ども達が社会に出るころには、想像がつかないほどの変革が起こることが容易に想像できる。学校がIT機器を使える環境づくりを一刻も早く整え、それに合わせた、IT機器を有意義に使える教師の人材育成をする必要に迫られている。